

既存ホテル・旅館の  
花粉抗アレルギー対応で

## 一層の高級化・差別化を

### ユニパックスの洗浄再利用型フィルタ



松江 昭彦社長

ユニパックス(社長 松江昭彦氏、本社・埼玉県川口市)の空調用洗浄再利用フィルタが高級ホテルや高級旅館での採用を広がっている。

同社の空調フィルタの特長は①大気汚染防止法制定当時と比較して大幅に改善された今日の大気汚染状況に則した低圧損・高集塵性能(省エネ)を持つろ材、②業界で他に例を見ないプレ・メイ

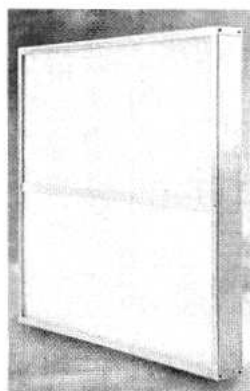
ン一体型かつ洗浄再生利用型による(主に人件費に関する)年間メンテナンスコストの大幅削減の2点に集約できる。大気汚染防止法が制定された1970年代に比べ、今日の大気汚染状況は大きく改善されている。大気汚染の指標である浮遊粒子状物質(SPM)は当時に比べ8分の1にまで減っており、加えて健康増進法の施行後は、分煙化が著しく進んだことで室内粉塵濃度も大きく低下している。それに対して、空調用フィルタの構造は半世紀前から大きくは変わっていない

め、初期圧力損失が高い(必要な空気搬送動力が大きい)エネルギー消費が大きい。中性能フィルタと清掃頻度が高いプレフィルタを使い続けており、ユ一サーは必要なコストを支払い続けている。こうした状況に疑問を感じ独自開発したのが第2世代型中性能フィルタ「蕙風(くみふう)」だ。蕙風はプレ・メイ一体型で、必要十分な集塵性能を持ちながら、従来型(第1世代型)フィルタの200パスカルに対し半分近い110パスカルの低い初期圧力損失を実現している。これは定風

量方式の送風ファンならば、従来比で2割近い消費電力削減を見込める。他方で蕙風は洗浄再利用型であるため、2年目から年に1回の洗浄で性能を回復し、計4年間再生使用が可能と購入コストも大きく減らせる。また、従来型のプレフィルタ80枚を2ヵ月に1回の洗浄をした場合と比べる2年間メンテナンス負担を26人工から2人工へと大幅に激減できる。蕙風は2007年に東京ミッドタウンの主力空調フィルタとして4千個が採用され業界関係者を驚かせたが、同案件では中高層階に外資系高級ホテルが入居していたことも導入決定では大きなウエイトを占めたという。一般にホテルの空調稼働率はオフピーク等には比

べて高いため、高集塵・低圧損なフィルタを導入することに省エネメリットが出しやすい。また、交換作業の回数が減ることは、人件費の抑制だけでなく、サービスタッフの姿を宿泊客が目にする機会が減る。海外では「サービスタッフが頻繁に出入りするホテルは設備に不安がある」と判断されるのが一般的とされており、この点でも蕙風は高級志向のホテルにとって「使えるアイテム」と判断された。蕙風の実績を基にユニパックスは性能向上や機能の追加を実施。現在のラインアップは、「蕙風」の後継にあたる第3世代型プレ・メイ兼用中性能ハイブリッドフィルタ「涼風(りょうふう)」のほか、これにスキ花粉

抗アレルギー加工を施して室内の花粉を集め不活性化させる機能を加えたプレ・メイ兼用型洗浄再生アレルギー吸着フィルタ「香風(こうふう)」、同様の発想を空調方式一方の主力である個別分散方式で最も多く使われている天カセ室内機用フィルタで実現した天井型力セットエアコン用アレルギー吸着フィルタ「恵風(けいふう)」、外気導入経路からの室内への花粉やPM2.5の侵入を水際でシャットアウトし中性能フィルタの長持ちさせる「春風(しゅんふう)」などがある。地方の老舗を顧客とする設備・メンテナンスの活用を期待



第3世代型プレ・メイ兼用中性能ハイブリッドフィルタ「涼風」

訪日外国人観光客数が政府目標を上回る形で推移していることを背景に、国内ではホテルの新築・増改築、リニューアルが全国各地で盛んに行なわれている。こうしたなか、市場では客室数の不足と共に多様化する客層にあった宿泊施設の提供一特に高級ホテル需要への対応が大きな関心事となっている。五輪開催を控える東京エリアでは、都市再開発に絡めた欧米高級ホテルチェーンの進出も目立つが、これらは大抵イチから建設するため、クローバル基準での「高級仕様」を揃え拡大に期待している。